

# Changing Consumer Education for Sustainable Society 3

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/718">http://hdl.handle.net/2297/718</a>

# 持続可能な社会に向けての消費者教育の転換(第3報) : 高等学校の授業評価

綿引 伴子・分校 淑子\*1・尾島 恭子・大浦 美雪\*2

## Changing Consumer Education for Sustainable Society(3): Classroom Evaluation at a Senior High School

Tomoko WATAHIKI, Toshiko BUNKO, Kyoko OJIMA and Miyuki OURA

### 1. 目的

本研究全体の目的は第1報<sup>1)</sup>と同様である。第1報では一連の研究の目的と枠組みについて報告した。第2報<sup>2)</sup>では第1報で述べた目的と視点に基づいて作成した、中学校と高等学校のそれぞれの授業案を示した。また、中学校で実践した授業について検討した。

本報においては、高等学校で実践した授業を検討するとともに、本研究全体の総括を行なうことを目的としている。

### 2. 方法

高等学校で行なった授業実践について、以下の方法で分析・検討を行ない、授業全体を評価する。

- (1) 授業で実施したディベートの内容を分析し、授業のねらいへの到達度を検討する。
- (2) 全授業終了時に実施した、生徒に対するポストテストと生徒が書いた小論文の内容を分析し、授業のねらいへの到達度や生徒による授業評価を検討する。
- (3) 授業終了後に、授業全体に関する授業者の意見・感想を聴取し、検討する。

授業対象者は、石川県公立高校の1年生3クラス、119名であり、実施期間は、2000年7月から11月である。

(2)のポストテストの質問事項は以下の3

点である。

- ①モノやサービスを購入・選択する際、あなたはどんなことを考えますか?なお、その中で、「買ってはいけない」～「遺伝子組み換え食品」の授業を受ける前からすでに考えていたことには、○印をつけて下さい。
- ②「買ってはいけない」～「遺伝子組み換え食品」の授業において、改善した方がよいと思われること(授業の内容や方法など)があったら記述してください。
- ③「買ってはいけない」～「遺伝子組み換え食品」の授業全てを通してあなたが学んだことや授業の感想を自由に記述してください。

(2)の小論文は、以下のように指定した。

<「買ってはいけない」論争に関する授業や、「遺伝子組み換え食品」についての授業をふまえて、以下に示すテーマについて、400字以上で論述しなさい。>

テーマ:「持続可能な社会」についての私の考え

\*「持続可能な社会」とは、人間を含めた様々なものが、少なくとも数百年以上は存続し得る能力を備えた社会のことを意味する。>

本授業のねらいは、主に認知領域ではなく情意領域であるため、その達成度は客観的に測りにくい。さらに、授業で行なったことを内包しつつ将来的に実践力を持つ場合など、即時的に結果の出ない場合もある。それらの限界をふま

えつつ、生徒の学びを検討していきたい。

### 3. 結果及び考察

本研究の目的と視点に沿って、各方法ごとに授業の検討を行なった。

#### 3.1 ディベート内容の分析による検討

第2報の表2で示した高校の授業展開における、②「社会的意思決定」をテーマとした、遺伝子組み換え食品について考える授業の最終段階で、遺伝子組み換え食品の是非をめぐってディベートを実施した。一般にディベートとは、ディベーター自身の意思に関わらず、2極の意見に分かれ、時間を区切りながら、それぞれの意見の論理性を競い、オーディエンスが判定を

下すゲームである。生徒の興味をひく授業方法として教育現場でもしばしば用いられている。但し、本授業では、自分自身の意思を表現することや異なる意見を聞くことを重視し、テーマに関する価値観を深めるための授業方法として、ディベートを取り入れた。そのため、ゲーム的な要素は極力抑え、生徒全員が一人ひとりの意思に基づいて2極に分かれ、自由に意見を交換し合い、判定は行なわない、というスタイルをとった。

是非の人数比は、3クラスともやや非側が多かった。

表1に主な論点を示した。

論点1は、食糧難と人体への安全性に関する問題から企業や国のあり方までを問うものであった。第2報で述べた本授業のねらいである「多

表1 ディベートの主な論点

#### 【 論点1 安全性と情報リテラシー 】

是：人口爆発による食糧難対策として、遺伝子組み換え食品は人類にとって福音である。アフリカの子どもたちが救われる。企業や国だって、本当に危険なものだったら進めないと思う。

非：安全性についての実験結果は現段階では安全・危険の両者があり、不安が残る。特に、企業の言うことは、利益優先なので、信じられない。自分たちが人体実験されるのも嫌だし、アフリカの人達で実験する感じもして嫌だ。

共通意見1： 安全性がわからない段階では結論は出せない。

共通意見2： 国も企業も正確な情報を公開すべき。

#### 【 論点2 消費者の意思決定 】

是：価格の安い大豆と高い大豆があったら、安いほうが遺伝子組み換え大豆とわかっていてもほとんどの人は安い大豆を買うと思う。

非：価格の差にもよるが、安いからといって消費者が必ずとびつくとは言えないと思う。

是：食べたくない人は食べなければ良いので、表示さえ義務付ければ遺伝子組み換え食品自体には問題ない。

非：食べたい人だけ食べれば良いと言うのは、無責任な感じがする。

#### 【 論点3 「進歩」の是非 】

是：今は試行錯誤の段階。人体や環境への安全性に疑問があるからと踏み止まってしまっは、人類に進歩はない。

非：進歩は逆に絶滅をも引き起こすかもしれない。もっと慎重になるべきだ。

#### 【 論点4 時代の転換期 】・・・1クラスのみ

是：これまででも、品種改良の技術を使ったり、農薬を使った食べ物を作ってきたのに、なぜ遺伝子組み換え食品で急に駄目だと言うのか。

非：遺伝子組み換え食品だけが駄目で、農薬は良いという線引きではなく、もうここで限界であり、ひき返すべきだと言いたいのだ。

(~~~~は本文中で指摘した箇所)

角的視野」が盛り込まれた議論であるとともに、非側においては、「生活者」としての自覚を確認することができた。さらに、両極の共通意見は、同じく授業のねらいとして示した「情報リテラシー」の重要性についての指摘であった。

論点2の非側の意見には、価格本意の消費者からの脱皮や、「個人的意思決定」を超えた「社会的意思決定」への萌芽が確認できた。

論点3は、是側の科学万能の20世紀型パラダイムと、非側のそれに対する懐疑が争点であった。この議論の後、一クラスのみではあったものの、論点4に示したように、非側から、時代の転換期であることが述べられた。

以上、ディベート内容から、生徒が、「多角的視野」に基づく環境醸成的な「生活者」としての視点を持ち始めたことや、「社会的意思決定」の重要性に気付き始めたことが推察された。同時に、「情報リテラシー」の重要性を生徒自らが指摘し要求していることが確認できた。

### 3. 2 ポストテスト・小論文の分析による検討

#### 1) ポストテストの分析による検討

- ① モノやサービスの購入・選択時の留意点  
モノやサービスの購入・選択する際の留意点

を図1に示した。授業前から多くの生徒が留意していた「価格」や「品質」、「必要度」などは、消費者として留意すべき重要な観点であるが、これらは、いずれも購入者の個人的レベルのものである。それに対し、授業後留意する者が多くなったものとして「安全性」と「遺伝子組み換え食品か否か」があげられた。「遺伝子組み換え食品か否か」は授業テーマそのものであるため、当然の結果ともとれるものの、「安全性」を含めて、人体への影響や流通など、社会的レベルまで見据えた多角的な留意点である。質問そのものは、「モノやサービスを購入・選択する際、あなたはどんなことを考えますか？」という、あくまで情意的なものであり、そのような質問においても、「安全性」などを特記した生徒が量的にもかなり増したということから、授業の効果が大きかったことが推察できた。

#### ② 授業内容や方法の改善点

もっとも改善が望まれたのは授業時間についてで、全体の3割以上にあたる37名の生徒が指摘していた。特に調べ学習の時間不足が18名と最も多かった。その他、グループの人数や分け方(22名)、発表の仕方(18名)をはじめ、主に授業方法についての改善要求が記述されていた。

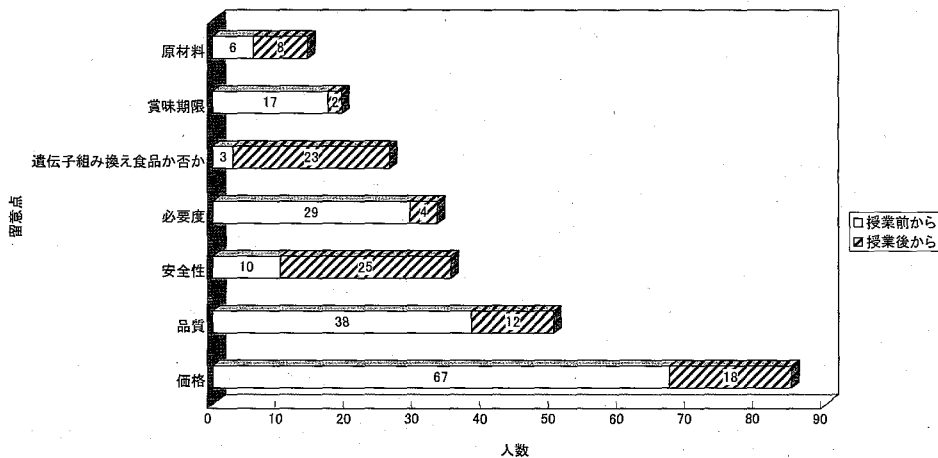


図1 モノやサービスの購入・選択時の留意点

た。生徒から時間延長の要求が出るということは好ましいことではあるが、家庭科時間数削減の中、これ以上の時間延長は困難と思われる。細部における授業方法についての生徒の意見は、授業案改善への参考としたい。

本授業内容は、生徒にとって授業者の価値観の押し付けと感じられるのではないかと、当初より授業者も著者らも危惧していた。実際、「先生はあくまで公平な立場からの客観的なまとめ方をして欲しい。」のような意見もみられたものの、このような指摘は2名のみであり、ほとんどの生徒にとっては、価値観の押し付けという印象が強くなかったと推察できた。

### ③ 学び・感想

「具体的にどんな被害が起こっているかわかった」のように、授業で得た知識そのものを記述してあるものや、「遺伝子組み換え食品は怖いと思った」のような単純な感想も多く見られたが、本研究の目的に沿った記述も多く見られた。「生活者としての自覚」・「多角的視野への広がり」・「社会的意思決定の重視」以上3

つの視点に関連する具体的記述例を表2に示した。

尚、遺伝子組み換え食品の是非に関しては、是が38名、非が78名であった。

以上、ポストテストによる検討を通して、人体への安全性や環境への配慮など、「多角的視野」の広がり確認できた。さらに、実践的態度を備えた「生活者」の自覚や、「社会的意思決定」の重要性に気付いた生徒もいることが確認できた。

本授業全体を通して、生徒は、授業内容については特に不満を感じておらず、時間不足や授業方法について改善の要求を持っていることが明らかになった。

### 2) 小論文の内容分析による検討

本来、持続可能な社会に責任の持てる消費者の育成には、授業を超えたところでの生徒の意識の変革や深まり、その定着が重要となる。そこで、授業で具体的に触れなかった「持続可能な社会」をキーワードに、「持続可能な社会についての私の考え」というテーマで全生徒に

表2 生徒自身の学び・感想の自由記述

① 生活者としての自覚
【ア】 今日でこの授業は終わったが、大事なことはこれからの考え方や行動だ。
【イ】 これからの時代は、科学技術の発達の勢いに任せて進んでいた時代とは違う。『ほんやりとした不安』を無視しないことが大切だ。
② 多角的視野への広がり
【ウ】 今まで価格重視だったが、今回の授業で、環境問題にきちんと対応しなければいけないと感じた。
【エ】 企業や国はもっと情報を公開して、利益より安全性にもっと気を配るべきだ。
③ 社会的意思決定の重視
【オ】 今まで、『おもしろかったり美味しければいいじゃん』と思っていたけど、自分の選択に社会を変える力があるんだということをもっと認識しなくてはいけないと思った。
【カ】 ただ既成の商品を受け入れるだけでなく、それが環境や自分の体に与える影響を考慮して購入することにより、社会全体を動かせると思った。

小論文を書かせた。その内容をアフターコーディングし分析した。アフターコーディングした分析観点は、①環境倫理 ②科学技術 ③意思決定 の3点、及び、その他である。表3にそれぞれの記述内容の例（主旨）と記述した生徒の人数を示した。

生態系についての環境倫理の視点は半数近い54人の生徒に見られた。但し、他国や次世代といった人類と環境倫理の結びつきを指摘した生徒は16人と比較的少なかった。今後の授業展開では、そのような観点についても触れるものに改善したい。

科学技術の必要性を主張する生徒は全体の1

割程度（12人）いるものの、4割近い生徒が科学技術信仰への懐疑について記述していた。

個人が意思を持って、「持続可能な社会」に向けて行動していくことを約2割（26人）の生徒が記述しているが、その力が社会を変えることについての認識まで到達した生徒は7人と比較的少なかったようである。「社会的意思決定」の側面については、授業者からの示唆や補足を入れるなど、今後の授業展開を工夫したい。

少数ではあるものの、生産者や市民の概念も含む「生活者」として、国や企業、農業にまで目を向けた生徒が、それぞれ5人、6人、3人いたことは意味のあることである。

表3 小論文中の観点と記述内容の例（主旨）及び記述人数（全119人）

観点	キーワード	記述内容の例（主旨）	人数
環境倫理	・生態系	・生態系の破壊について ・ヒト社会は多大なる自然の犠牲の上に成り立ってきた ・自然の上にとつたのではなく、共存する考えをもたなければ近い将来必ず大きなしっぺ返しが来る ・人類ばかりではなく、生物への影響を考える必要がある	54
	・人類 (他国や次世代)	・子孫に地球を受け継いでいかねばならない ・次世代への影響を考えねばならない ・地球上の人間同士仲良く暮らすことが大切	16
科学技術	・科学信仰への懐疑	・新技術は慎重に扱う必要あり ・本当に必要なものかを考え、技術の開発を深く論ずる必要があり、とまることも必要 ・科学の進歩はよい影響ばかりではなく、それによって破壊されたものもきちんと見るべき ・人間は科学技術に頼りすぎた ・限界に達していることに危機感や疑いをもつべきで、発想の転換が必要	41
	・科学技術の必要性	・自然と共存するための技術の開発が待たれる ・技術を受け入れる心が必要 ・科学技術が先行すれば問題はない	12
意思決定	・個人的意思決定	・一人ひとりが正しい情報を得、判断し、流されない意思をもとう ・自ら何らかの行動に出る ・消費者も考えて生活し、消費することが大切	26
	・社会的意思決定	・他の社会の人たちと共同して発言しよう ・生産者だけでなく、消費者も考えて消費することで、世の中が変わる	7
その他	・国や政治 ・企業 ・農業	・経済発展より重要なことがあることに気付き、もっと積極的に関与すべき ・営利主義に陥らないように ・自分の食べるものは自分で作るような形態が本当の発展につながるのではないか	14

この小論文は、情意的な部分を多く含む本授業のねらいの定着をみるため、間接的に生徒の意見を問うたものである。その中に、筆者らのねらいとしたことが複数の生徒によって記述されていたことは、大いに評価できることと言えよう。

### 3) ポストテストと小論文の分析のまとめ

ポストテストと小論文の内容の検討により、人体への安全性や環境倫理の視点など、多角的な視野の広がりなどが多くの生徒に認められた。また、「生活者」の視点や社会的意思決定の重要性に気付いた生徒もおり、概ね本授業のねらいが達成されたと思われる。これは、教授式の授業ではなく、調べ学習・ディベートなど、生徒が主体的に考える授業であったことにより、生徒の意識レベルの変化を促したためと推測される。

本実践においては、授業者の言葉が、生徒にとって価値観の押し付けと受け取られるのではないかと危惧から、極力授業者主導の展開を減らした。しかし、ほとんどの生徒はそのような印象を抱いていないことから、授業者の示唆を多少多くしてもよいと判断できた。従って今後は、さらに多くの生徒が、人類と環境倫理の関連や、「社会的意思決定」の重要性に気付くよう、授業者からの示唆を与える展開も試みたい。但し、本授業のように情意部分にまで迫ることをねらった授業においては、生徒の主体性を重んじることが基本であり、知識や徳目として与えるような授業に傾倒することは避けねばならないであろう。また、前述したように、授業直後にはこのような価値観をまだ受け入れることができない場合であっても、その後の経験を通して、本人の素地が膨らんだ時に改めて、内包していた授業のねらいに到達するケースもあると思われる。

### 3. 3 授業者の意見・感想による検討

全授業終了後に聴取した授業者の意見・感想は、主に以下の5点に集約された。

- ①これまでの消費者教育の枠組みを超えた内容やねらいであり、今の時代において重要な教育である。
- ②タイムリーな話題を教材として用いることは、授業者自身の教材研究が大変ではあるが、生徒の興味関心が高くなり授業効果が高い。
- ③授業者自身の意見や価値観が、ディベート時などに生徒に影響を及ぼすのではないかという危惧がある。
- ④情意的なものや、頭の中や言葉だけではなく、行動にこそ価値のある部分も多く含んでおり、評価が困難である。
- ⑤他教科、特に公民科などとの連携による総合的な広がり期待できる題材である。

総じて、授業者も本授業については、意義を感じており、生徒の反応もよかったと捉えていた。また、⑤にもあげたように、本授業は、他教科との連携をとることにより、さらに可能性が広がることを期待できる。従って、家庭科の時間数削減の中、本授業は、「総合的な学習」での展開もその射程となるであろう。③の危惧については、ポストテストより、前述の通り必要以上の配慮は不要と思われる。今後の課題としては、生徒の評価があげられた。

### 3. 4 高等学校授業実践の総括

高等学校の授業実践について、①授業中のディベート内容の検討 ②授業後に生徒が記述したポストテスト・小論文の検討 ③授業後に授業者から聴取した意見・感想の検討、以上3つの検討を通し、授業評価を行なった。

結果、本授業のねらいの第1点目である、「情報リテラシー」、及び「個人的意思決定」の重要性に関しては、多くの生徒に受け入れられ、定着したことがうかがわれた。同様に、第2点目の「多角的視野」をもつことについても、人体への安全性をはじめ、環境倫理の視点など、授業以前に比べ量的にも質的にも増したことが確認できた。社会的意思決定能力を備えた「生活者」としての自覚に関しては、ディベートの

中の重要な論点にもなり、ポストテストや小論文の記述の中に読み取ることもできた。但し、大多数の生徒にそのような価値観が培われたとまでは言い難く、今後の授業において授業者から多少の示唆を促す必要性もあるであろう。

以上、本授業は、概ね授業のねらいを達成することができたものと思われる。今後の課題として以下の4点があげられた。

- ①授業時間のバランスや、ディベートの方法などの細部における授業方法の改善
- ②「社会的意思決定」や「生活者」の自覚をもつことの重要性について、多くの生徒への定着を計る工夫
- ③「総合的な学習」への可能性の検討
- ④生徒の評価基準等の検討

以上の課題を再検討し、他校への汎用性も高めていきたい。

#### 4. 本研究全体の総括

本研究は、家庭科教育において「持続可能な社会」を目指した消費者教育の授業実践プログラムを考案することを目的としている。

結果、授業の視点として、①「生活者」としての自覚と、②「多角的視野」をもった「社会的意思決定」の重視を考案し、それに基づいた中学校・高等学校の授業案の作成と実践を行なった。それらの授業を検討した結果、中学校においては、「情報リテラシー」や「自己の意思決定」の重要性についての認識は高まったものの、「社会的意思決定」の重要性についての認識までは至らなかった。そのため、修正授業案

の提示を行なった。

高等学校の実践については、「情報リテラシー」、「個人的意思決定」、「多角的視野」の重要性に関しては、多くの生徒に受け入れられ、定着したことがうかがわれた。総じて、本授業は、概ね授業のねらいを達成することができ、「持続可能な社会」を目指した消費者教育の授業実践プログラムとして有効な授業であることが確認された。今後は、「社会的意思決定」や「生活者」の自覚をもつことの重要性について、さらに多くの生徒が認識できるよう授業を工夫することが課題である。

今後の主な課題として、以下の3点が挙げられる。

- ①中学校における修正授業案の実践と再検討
- ②「総合的な学習」への可能性の検討
- ③生徒の評価についての検討

以上の点を踏まえ、各校種での汎用性を高め、消費者教育の充実に貢献していきたい。

#### 引用文献

- 1) 尾島恭子, 綿引伴子, 分校淑子, 大浦美雪.  
持続可能な社会に向けての消費者教育の転換  
(第1報): 研究の枠組みと授業内容の検討.  
金沢大学教育学部紀要教育科学編, 第53号, 2004, 117-121p.
- 2) 綿引伴子, 分校淑子, 尾島恭子, 大浦美雪.  
持続可能な社会に向けての消費者教育の転換  
(第2報): 中学校・高等学校の授業案と中学校の授業評価.  
金沢大学教育学部紀要教育科学編, 第53号, 2004, 123-131p.